

資料 〈単元全体の基本過程〉 (8段階)

段階	指導意図	学習活動	方法
1. 全文を通読して学習をたてる	<p>○教材との出会い(問題→学習計画をたてさせる)</p> <p>・一読後の印象をおさえさせる(問題意識)</p> <p>内容表現(言語含む) 予盾 問題意識 経験(自己) 疑問</p> <p>解決のための計画をたてさせる</p>	<p>全文の通読</p> <p>・疑問点をつかむ(漢字、語いなどの不明な点を明らかにしておく)</p> <p>(おもしろいところ、読みすすめてみたいところ、不明な内容などについて)</p>	<p>○題やさし絵を見ての話し合い(低)</p> <p>○単元名や内容についての話し合い(中)(高)</p> <p>○はじめの感想</p> <p>・みんなで話し合う(低)</p> <p>・かんたんな感想を書き話し合う(中)(高)</p> <p>○話し合ったことをもと</p>
2. 基礎学習をする	<p>○読みすすめていくために抵抗となることば(語い)や漢字を取り上げ解決する</p> <p>※文脈に即して解決しなければならぬことばについては、第4段階(わしく読みとる)で更に行う</p> <p>※文章を正確に味わい深くよみとるための基礎学習であること</p>	<p>○文字、語句を調べる</p> <p>・ひとり調べ</p> <p>・共同学習</p>	<p>・具体物、動作化</p> <p>・文字カード、掛図利用(低)</p> <p>・文字カード(中)</p> <p>・具体物、写真</p> <p>・文字カード辞書(高)</p> <p>※O・H・Pの活用</p>
3. とおし読みをする	<p>○問題意識を深めながら課題の発見をさせる</p> <p>・文章全体を見通し、作品構成をつかませる</p> <p>・この学習では、何がもっとも大切なのかをつかませる</p>	<p>○場面ごとの事実をおさえる</p> <p>○場面の相互関係をおさえる</p> <p>○課題作りをする(学習課題の設定)</p>	<p>○話のじゅんじょがわかる(低)(いつ、どこで、何が、どうした)</p> <p>・さし絵、かけ図利用、あらすじの確認、場面わけ(中)</p> <p>○作品の主題想定(高)</p>
4. くわしく読む	<p>○課題解決のために、人物の行動、心情事象をくわしく読みとらせる(読みを正す)</p> <p>・個人→共同→個人→共同によって、課題解決をはかり、主題にせまらせる</p> <p style="text-align: center;"> </p>	<p>○課題追求によって主題にせまる</p> <p>○文字、語句を正しく身につけさせる</p>	<p>○動作化、さし絵、掛図O・H・Pの利用(低)</p> <p>○全文音読(全学年)</p> <p>○表現に即して、登場人物のことばや行動と心情の関係を読みとる(中)</p> <p>○登場人物の心情を分析してみることから(高)</p>
5. 感想をかく	<p>○作者と児童個々の対話をさせる</p>	<p>○感想文をかく</p>	<p>○主人公への手紙、紙芝居(低)</p> <p>○感想文を書く(中・高)</p>
6. 作品のよさを味わう	<p>○感想をもとに、全文をふりかえり、表現のすぐれているところや作者、作品について考えることができるようにする</p>	<p>○おもしろいところ、好きなどころを発表し話し合う</p> <p>○作者の人がらについて考える</p>	<p>○全文音読(1年～4年)</p> <p>○おもしろい所、好きな所を書いたり話し合ったりする</p> <p>○全文朗読(5.6年)</p> <p>・描写や叙述のすぐれた所を味わわせる</p>
7. 基礎と学習評価をする	<p>○わかったこと、わからなかったことを整理したしかに身につけさせるようにする</p> <p>○目標による評価</p>		<p>○学習後の反省をする</p> <p>・学習してわかったこと</p> <p>・楽しかったこと</p> <p>・努力のたりなかったこと</p> <p>・学習の仕方への反省</p>
8. 読書をする	<p>○学習した作品の発展読書をさせる</p>	<p>○同一作家の作品や同一主題の作品を読む</p>	<p>○読む、聞く(低)</p> <p>○読む(中、高)</p> <p>○感想文を書く</p>

また、漢字書字力の定着を図るためには、「漢字・言葉ノート」だけの練習では足りない場合もあるので、漢字練習帳やドリル等での自習の他に、プリントなど数多く取り入れた。

① 漢字や言葉については、定着の度合いや応用力に個人差が認められたものの、全体的に確実さが増した。(下リル学習・一人調べなどの効果)

② 心情の読みとりについては、「読みとりノート」をもとにOHPなどの発表を手がかりに各自の考えが深められていったが、学習訓練とあわせて発問の研究等反省させられる素材がいくつもあった。

三 まとめ

(一) 実践の結果から

① 読みとりにおける基礎的基本的事項の重視は、読むことへの抵抗を少なくして、朗読などにも好影響を及ぼしてくるが、自分から意識を持って努力をする児童とそうでない児童との個人差もはっきりしてくる。また、単元全体の展開に当たっても、初めのうちは時間数の不足がみられたが、馴れるに従って解消の方向へ向いてきた。

② 単元学習展開のパターンが児童に

も分り、課題意識を持って一人調べをすること、また、調べた結果が認められるということが、次時への学習意欲となつて好循環を生むようになるが、高学年になるにつれ、ついていけない子がでてくるので、能力に応じた学習のしかたを指導する必要がある。その際、言うまでもないことであるが、担任の励ましはもちろん、級友から認められ励まされることが大きな影響を及ぼしている。

③ 児童が自ら喜んで学習に取り組むようになるためには、期待される児童像だけを追求して手だてを講ずるだけでなく、教師そのものも、自己満足やマンネリ化した状態から脱皮すべく研修を続ける必要がある。

(二) 今後の課題

読むことについては、児童も学習のしかたがある程度分り、言葉や語句についての理解と定着が図られるようになってきたが、せっかく豊富になつてきた語いを、文章表現に生かしきれないでいる場合が多いようである。

これは、文章構成と修飾語の働きの関係がよく把握できないでいるのも一因と思われるので、基礎学習の段階で行ってきた短文の積み上げと合わせて、文章構成についての理解を図る指導を工夫し、更には、周囲の事象を注意深く見られる態度を育て、「表現」の力を伸ばすようにしなければならぬと考えている。そして豊かな表現できる児童を一人でも多く育てたい。